

みどり とちぎ水と里づくりプランⅡ

さと
元気あふれる郷をめざして

(平成23～27年度)

平成23年3月

栃木県





計画策定に当たって

趣 旨

「農業農村」は、消費者が求める安心・安全な「食」を提供するとともに、いやしとやすらぎ、豊かな人間性を育む場として、また、水源かん養、美しい景観、伝統文化、国土保全への貢献など、農業が営まれることによる多面的機能を有しています。これらは、すべての県民がこれまで持続的に享受しており、今後とも守り育てていく必要があります。

しかし、今日の「農業農村」の情勢は、農産物価格の低迷による所得減少、高齢化による活力の低下や耕作放棄地の増加など、ますます厳しさを増しており、より効率的で低コストな農業の展開や、農村の活性化をなお一層進めていくことが求められています。

この「とちぎ水土里づくりプランⅡ」は、こうした「農業農村」の状況を踏まえ、また、「農業の成長産業としての発展」を目指す「とちぎ農業成長プラン」（栃木県農業振興計画）を着実に進めるため、農業農村の整備と農村の振興について、今後5年間に取り組むべき基本的な考え方と重点的な取組を示す計画として策定しました。



水土里とは

豊かな自然環境、美しい景観、おいしい水、きれいな空気に囲まれた農業農村を表しています。

「水」は農業用水や地域用水などを、「土」は農地を、「里」は農村空間、生活空間などを意味しており、「人」が農業という営みの中で醸成した文化や農村風景、生態系が「里」を形づくっています。

これら「とちぎの水土里」は、栃木県の農業を支えるばかりでなく、美しい自然や景観、豊かな文化の保全継承、都市住民に食や憩いの場を提供するなど様々な役割を果たしています。

位置付け

国計画

食料・農業・農村基本計画

(平成22年3月農林水産省)

<基本的な方針>

- 再生産可能な経営を確保
- 多様な用途・需要に対応して生産拡大と付加価値を高める取組を後押し
- 意欲ある多様な農業者を育成・確保
- 優良農地の確保と有効利用を実現
- 活力ある農山漁村の再生に向けた施策の総合化
- 安心を実感できる食生活の実現



土地改良長期計画

(平成20年12月農林水産省)

<基本的な方針>

- 自給率向上に向けた食料供給力の強化
 - ①効率的かつ安定的な経営体の育成と質の高い農地集積
 - ②農業用排水施設のストックマネジメントによる安定的な用水供給機能等の確保
 - ③農用地の確保と有効利用による食料供給力の強化
- 田園環境の再生・創造
 - ④田園環境の再生・創造と共生・循環を活かした個性豊かで活力ある農村づくり
 - ⑤減災の観点も重視した農業災害の防止による安全・安心な地域社会の形成への貢献
- 農村協働力の形成
 - ⑥農村協働力を活かし、集落等の地域共同活動を通じた農地、農業用水等の適切な保全管理

県計画

栃木県重点戦略 新とちぎ元気プラン

(H23~H27)

<“とちぎ”の将来像>

◇「安心」「成長」「環境」をともにつくる
元気度 日本一 栃木県

<重点戦略>

<政策の基本>

- 暮らしを支える安心戦略 「人づくり」
- 明日を拓く成長戦略
- 未来につなぐ環境戦略



栃木県農業振興計画 とちぎ農業成長プラン

(H23~H27)

<将来ビジョン> 農業の成長産業としての発展

<基本目標> 「進化する農業・栃木」の推進

☆重点戦略

- 本県農業をリードするプロ農家の育成
- 時代の変化に対応した産地競争力の強化
- 水田経営とちぎモデルの推進
- 農業を起点とした“フードバレーとちぎ”の推進
- 環境をはぐくむ“エコ農業とちぎ”の展開
- 地域資源を活用した農山村の元気創出
- ユニバーサル農業の推進

とちぎ水土里づくりプランⅡ (H23~H27)

<基本目標> 元気あふれる郷をめぐらして

<基本方針> 水土里を多様な人が活かし、農業農村を支えていきます

<重点取組> ①農業水利施設の保全管理と土地改良区の運営強化

②地域の創意と工夫で進める生産基盤の整備

③地域資源を活用した都市農村交流による活性化と農村環境の保全・活用

期間

平成23年度を初年度とし、平成27年度を目標年度とする5カ年計画です。



目 次

計画策定に当たって	1
趣旨	
位置付け	
期間	
全体構成	4
第1章 農業農村の現状と課題	5
第1節 農業農村整備と農村振興の役割	6
第2節 現状と課題	8
第2章 これからの農業農村整備と農村振興	17
第1節 基本的な考え方	18
1 めざす方向（基本目標）	18
2 施策の展開方向	20
第2節 重点取組	24
1 農業水利施設の保全管理と土地改良区の運営強化	24
2 地域の創意と工夫で進める生産基盤の整備	27
3 地域資源を活用した都市農村交流による活性化と農村環境 の保全・活用	30
第3章 各地域の取組	35
1 河内地域	38
2 上都賀地域	40
3 芳賀地域	42
4 下都賀地域	44
5 塩谷南那須地域	46
6 那須地域	48
7 安足地域	50



全体構成

計画策定に当たって

①趣旨

②位置付け

③期間

第1章 農業農村の現状と課題

第1節 農業農村整備と農村振興の役割

第2節 現状と課題

第2章 これからの農業農村整備と農村振興

第1節 基本的な考え方

(1) めざす方向（基本目標）

元気あふれる郷をめざして

(2) 施策の展開方向

基本方針 水土里 を多様な人が活かし、農業農村を支えていきます

多様な人が活かし

豊かな水を活かし

広大な農地を活かし

里の魅力を活かし

第2節 重点取組

- ①農業水利施設の保全管理と土地改良区の運営強化
- ②地域の創意と工夫で進める生産基盤の整備
- ③地域資源を活用した都市農村交流による活性化と農村環境の保全・活用

第3章 各地域の取組（河内、上都賀、芳賀、下都賀、塩谷南那須、那須、安足地域）

(1) 地域の概要

(2) 農業の特徴

(3) 農業農村の状況

(4) 各地域の取組（基本目標、重点取組）